

初めてのホームステイを経験して

野田 知里

今回、このような機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

ホームステイは、中学生の頃より私の夢の1つでした。しかし、月日は流れ、いつの間にか夢の存在すら忘れていました。湧別町に転勤し、このような機会を得ることができたことを心から嬉しく思います。

2月7日、初めてニュージーランドに降り立ちました。初めての機内1泊は眠ることができず、混雑した機内から降り、進まない入国審査、乗り換えのために荷物を預けようにもなかなか預けられず…最後の最後にやっと預けて乗り込むという、なんとも落ち着かないスタートでした。荷物はクライストチャーチ空港で次の1便到着まで待ちましたが届きませんでした。仕方なく、荷物を任せウイローバンク動物公園へ向かいました。この動物園ではニュージーランドの代表的な鳥がたくさん飼育され、最近鳥に興味を持ち始めた私は、夢中でカメラのシャッターを切りました。特に子どもと約束していたキウイバードをこのカメラに収めようと必死に目を凝らしましたが、真っ暗闇の中、物陰にうごめくように生活する彼らを捉えることはできませんでした。残念さは残りつつも出会えたことに感動しました。

その夜、ホストファミリーと対面を果たしました。スーツケースが届いていなかったこともあり、挨拶早々にスーパーで必要な生活用品を買い、夜もバッグが届くまで夜遅くまで起きていてくれました。その親切に初めての地に安心して過ごすことができました。

2月9日から15日までは観光三昧でした。フランス系移民が開拓したアカロアは風光明媚な景色で、車中から撮影した写真はそのままポストカードとして使えるようでした。また、帰り道には、前日マオリの授業で興味を持ち、途中のカフェで本を買ったことを見ていたホストファミリーが、博物館に案内してくれました。マオリ族はオホーツク文化と似ているようなところがあります。例えば、狩猟民族であり、使用する道具や身に着ける物の素材が見たことある形をしていました。なんだか親近感がわきました。

アーサーズ・パス国立公園では、山を越えると植生が変わる様を車中から眺めることができました。また、オールド・リバーと呼ばれる何百年という月日をかけて河によって削られた地層を見ながら散歩することができました。ニュージーランドの自然の偉大さをひしひしと感じました。

また、道中ずっと気になっていたことは、トンネルが1つもないことでした。日本の技術の素晴らしさを実感しつつ、そこまで作り込まなくとも自然とともに生きていけるのだなと実感しました。

クライストチャーチでは、今も残る地震の悲惨さと復興真っ只中の現場を見ることができました。

セルウィン町長・議長表敬訪問や夕食会、さよならパーティでは、湧別町とセルウィン

町の信頼と歴史の深さを感じることができました。この素晴らしい交流が10年後、20年後も続いてくれることを祈っています。

様々な所に出かけましたが、一番楽しくて幸せな時間は夜、ホストファミリーと他愛無いことで笑いあう毎日でした。拙い英語ではありましたが、心は通じるものなのだなど実感しました。毎日毎日が笑顔で終わり、本当に幸せな日々を過ごさせていただくことができました。ホストファミリーには、食事・掃除・洗濯・送迎等、へとへとになるまで尽くしていただいたこと、心から感謝しています。